産官学で取り組む“人づくりプロジェクト”プラン

今や学習塾、進学塾、予備校なくしては、厳しい受験戦争には勝てない時代？と言われております。最近では就活塾や内定塾と称したビジネスまでもが誕生し注目されてきています。挨拶や身だしなみ、敬語の使い方、面接テクニック、小論文対応、筆記試験の傾向と対策、更には、就活中のお子さんを持つ親御さん向けのセミナーまで登場しているとの事。ただ、良い大学に入るため、良い会社の正社員になるための見栄えだけの付け焼刃的な対策にしか見えないのですが？大学はともかく、会社は、入ってしまえばこっちのものとはいきません。結果が出せなければ、使えなければ退場もあり得るのです。

社会で求められる能力（問題解決能力、考える能力、コミュニケーション能力等）は学力以上に重要です。にもかかわらず、希望大学に入ることが最大ゴールであり、ここに全エネルギーをつぎ込んでいるように思われてなりません。

これまで学んできたものと会社から求められるものにギャップを感じ、焦り、挫折するケースをいくつも見てきました。

企業はこれまで、社内の教育で使える人材を育てる風土・仕組みがあり、ここで本気を出せば、挽回も可能でした。しかし、これからは、グローバル化の波によって、育てるから使える人に取り換えるという新たな手段がとられ始めているのです。外国籍人材の積極的採用がグローバル企業の重要命題となってきていることからも厳しい時代の到来を感じざるを得ません。

有名大学や優良企業に入るための準備ではなく、社会に出るための、良い人生を送るための本当の人材育成教育が今、絶対必要だと感じています。日本の未来を云々言うつもりはありませんが、少なくとも自分の子供の未来については、そう考える親、大人は少なくないと思います。具体的行動に移さないと付加価値の高い職種を海外の人材に持っていかれる事態がすぐそこまで来ていると危惧しています。まさに待ったなしの状況です。

産官学で取り組む“人づくりプロジェクト”プラン

教育と雇用の現状

○日本の産業・経済が低迷する中、グローバル化によって外国籍の有能な人材との競争が余儀なくされてきている。

↓

○ますます厳しくなる雇用情勢

↓

○より高い学力を求められる

↓

○教育費用の増大

↓

○経済格差が教育格差を助長

↓

○超格差社会

すでに個人で何とかできる問題ではなくなってきている

人材評価尺度の変化

○世の中、企業も少しづつ分かってきている。欲しい人材や、結果を出せる能力が必ずしも学歴や偏差値では計れないことを。

↓

○学歴・偏差値はあくまでも参考データとし、各種手段を駆使し、結果を出せる能力の有無、可能性を見極めようとする方向に変わろうとしている

- ・コミュニケーション能力
- ・リーダシップ力
- ・行動力
- ・問題解決力
- ・交渉力
- ・協調性
- ・責任感　等々

この能力はどうすれば育つのか伸ばせるのか？

行政主体且つ産官学連携の大掛かりな中長期計画

プロジェクトの具体的展開戦略プラン

〇町、教育員会、その他で『教育改革協議会』？『教育改革プロジェクト』？『子育て支援改革プロジェクト』？を発足。

スローガン：『明日へ～子供たちの未来のために』
『未来を創る人を造る』
『新富町は、子供たちに目を向け、全員参加で明るく元気で自立できる人材を育成します。』・・・・等々

〇3つの行動プラン

フレームワークⅠ（お子さんの親御さん、保育園、幼稚園を対象）

学習能力・学力を学校の問題ではなく就学前の環境や育て方で決まる“性格”によって大きく左右されるという事を前提とした“親の意識改革”を一つの柱とした取組を提供。

＊性格とは行動力、やる気、積極性、我慢強さ、プラス思考、あきらめない気持ち、対人能力等を総合判断するもの。

具体的行動プラン
- 〇10歳くらいまでのお子さんの親御さんを対象としたセミナー、勉強会
- 〇保育園、幼稚園を対象にしたセミナー、勉強会
- 〇この取り組みの成果をどう測るか？どう継続していくのか？を議論し、仕組みをより良いものにする。

フレームワークⅡ（小学5年、6年生対象）

人の認知能力はほぼ10歳位までに決まってしまうと言われている。ここでは、直接、子供たちに『考える力』『何のために勉強するのか？』『社会に出るとは？』を伝え、自分との対話、想像力を駆使した何事にも真剣に取り組む本気のスイッチを入れる取組を提供。出前授業。

具体的行動プラン
- 〇子供達へ向けて何をどう伝えるのか？現プランのブラッシュアップ
- 〇モデル地区、モデル校の選定？公募？
- 〇小学5年、6年生対象に特別授業展開（できれば父兄参観）
- 〇この取り組みの成果をどう測るか？どう継続していくのか？を議論し、仕組みをより良いものにする

フレームワークⅢ（中学1年生～大学生）

将来の進路、どういう分野の職業に興味があるのか？大学進学？等の社会に出る最終準備段階において自分の未来について自分で考え方向やゴールを決める時期です。『グローバル化のメリット・デメリット』『社会に出るとは？』『企業の求めてる能力、人材とは？』『問題解決力とは』を学び、自分の考え方、行動力を身につけるための取り組みを提供。出前授業。

具体的行動プラン

- ○子供達へ向けて何をどう伝えるのか？現プランのブラッシュアップ
- ○モデル地区、モデル校の選定？公募？
- ○中学1年生～高校生を対象に特別授業展開
- ○この取り組みの成果をどう測るか？どう継続していくのか？を議論し、仕組みをより良いものにする

希望大学に入るための受験対策化した教育や膨大な費用を要する学習塾、家庭教師、通信教育あるいは希望の企業へ入るための就活塾や、内定塾での付け焼刃的な面接テクニックや小論文対策で本当に上手く行くのでしょうか？

社会に出るため、自立するため、やりがいや生きがいを感じながら充実した人生を送るために今、何をすべきかを伝えていく仕組みが絶対に必要だと考えています。

簡単でないことは理解していますが、できることからやり始めないと子供たちが厳しい未来を過ごすことになると危惧されてなりません。就活塾や内定塾とは、健康診断や体力測定日前日の断酒や腹筋運動のようなものだと思うのですが、1年以上も親子で就職のため右往左往している最近の就活事情が奇異に見えて仕方ありません。

○プロジェクトのゴールと評価基準

具体的な方法論の前に、このプロジェクトの成果がどういう形で実を結べば成功と呼べるのか？ここから描きたいと思います。

1. 子供の未来のために少しでも子供との、家族の時間を作ろうとする意識の増大そして実現。宿題より大事な家族との会話、家族みんなで笑ってる時間の増大。

2. 明るく元気で自分の目標がしっかり見えている遊びも勉強もスポーツも頑張ってる子供たち。
（自分で目標管理ができ、自ら工夫、努力ができる子供たち）

3. 学力テストの結果が徐々に？一気にアップ
（例えば子供達主体で算数や漢字検定、英語検定等で県トップを目指す、クラスや個人で1年間の成長度を測定し、やればできることを体感する。）

成功のキーワード：面白いか？楽しいか？本気か？

とにかく、自分の能力を最大限に発揮できる方法・・・・誰もが知っているにもかかわらず出来ていないやっていない事、それは・・・・。自分で考え、自分で決めて、自分で動く・・・・何も考えなくても言われたことをやっていればそれで問題ない、誰からも文句を言われない。怒られない。という習慣が家庭や学校での過保護、過干渉からしみついてしまったと考えられます。つまり、すべての行動に自分の意思が感じられない受け身の時間が支配しているということなのです。そこから、良い結果がでることは期待できないと誰もが知っているのに・・・・。

自分で考え、自分で決めて、自分で動く・・・・

これも、そうしなければならないという強迫観念では意味がありません。そうしたいと思える自分、それに対し本気になれる自分を作る頭の使い方を学ぶことが本当のゴールだと考えます。

プロジェクトの成果をなんで測るのか？～一つの尺度
（プロジェクト活動前後で実施し子供たちの心境や行動の変化を調査）

アンケート

〇学校は楽しいですか？
〇勉強は好きですか？
〇この数週間、家族とどれくらいの時間話をしましたか？１日平均　　分
〇この数週間、TVを見た時間は？１日平均　　分
〇この数週間、ゲームをした時間は？１日平均　　分
〇宿題、予習復習の勉強時間は？１日平均　　分
〇得意、好きな科目は？　なぜ？
〇苦手、嫌いな科目は？　なぜ？
〇給食は美味しいですか？
〇平均睡眠時間は？
〇今、夢中になってる、興味があることはありますか？それは何ですか？
〇最近あった楽しかったことは？
〇最近あった嫌なことは？
〇自分の好きなところは？
〇自分の嫌いなところは？
〇親への要望
〇先生への要望
〇学校への要望
〇今、目標をもって頑張ってることはありますか？それは何ですか？

〇子育て意識改革講座（４～６歳の親御さん対象）

・数の概念を徹底して刷り込む。
・情報を絵やイメージにする力。
・金銭感覚。
・手伝いが当たり前の習慣、勉強より大事!!
・遊びの中から学ぶ。

〇発想の天才になろう!!（１１～１３歳）

・社会に出るとは？
・お金の話。
・何のために勉強するのか？
・話す力。
・読む力。
・聞く力。

〇問題解決の基礎講座（中１～大学生）

・現状を認識する。
・課題、問題を掘り下げる。
・情報を集め分析する。
・起きてる現象に関していくつかのモデルを推定する。
・真のモデルを見極める為ひとつずつ検証を繰り返す。
　（矛盾点のあぶり出し）
・最終的に矛盾点が見いだせなかったモデルが真であることを
　実証する。

○まとめ

そもそも学力を如何にして伸ばすか？を目的･ゴールとするから世の中の要求スキルとのミスマッチが発生し、有名大卒の使えない人が輩出？されるのだと考えています。この事は誰もが感じ、周知の事実であるにもかかわらず教育現場に大きな変革は見受けられません。

厳しい現実を直視し、とにかく全力でこの受験戦争に打ち勝て!!は嘘ではないかもしれませんが･･･？このままで良いとは誰も考えてはいないはずです。しかし現実は、とりあえずは、第一志望校へ入ることをゴールとしてしまっています。目的は達成したものの当然、社会へ出るタイミングでグローバル競争にさらされ、自分の武器となるものが見当たらないまま敗者となってしまう危険性が高いのです。この責任は誰にあるのでしょうか？少なくとも子供達ではないはずです。

世の中に出て、何かしらの経済活動を行い、生計を立てるとともに仕事を通して自分を磨き、自分の存在意義を認識し、満足感や充実感を感じられる良い時間の積み重ね（良い人生）ができることがゴールと考えれば、何を子供たちに伝えれば良いのか？見えてくるのではないでしょうか。そして、それをなるべく早く伝えることが急務ではないかと考えます。

ここで最も重要なのは、学校任せ、塾任せでは絶対うまくいかないということです。まず親が何をすべきかについて未就学児から取り組むべきなのですが、親業、親学、親塾と称して土台を作っていくことが必須だと思います。親が子供に伝えなければならないこと、親にしかできないことは山ほどあります。

子供達へ向けては遅くとも中学生、できれば小学校高学年までには、社会に出る準備をしていることを伝えるべきです。高校生になってからではもう遅いかもしれません。

http://office-nagatomo.co.jp/

株式会社オフィスナガトモ

企画室　太田　泰晴

info@office-nagatomo.co.jp

〒889-1406　宮崎県児湯郡新富町大字新田5744番地1

TEL：0983-33-1105　FAX：0983-33-0393